



Fujita

# 脳神経外科友の会

藤田医科大学 ばんだね病院

ともにわちあいすこやかなときを



油絵 『湯谷・板敷川』 鈴木康則様／提供

2026年度の親睦旅行の案内は裏表紙です!!

Fujita 脳神経外科友の会

事務局／名古屋市 中川区 尾頭橋 3丁目 6番 10

TEL (0561) 38-7220

FAX (052) 323-5800

## 会報 64号

2026年(令和8年)2月



金沢会長あいさつ	表紙
佐野先生あいさつ	1
加藤先生あいさつ	3
堀口病院長あいさつ	5
健康コラム 伊藤瑞規先生(認知症)	6
立俣良崇先生(腎臓)	
三鬼看護部長(口活)	
眞野部長(人生会議)	
活動報告	8
おたよりコーナー	15
その他(俳画・写真・会計報告・ご寄付等…)	20
第80回親睦旅行ご案内	裏表紙



令和八年二月 吉日

脳神経外科友の会  
会長 金沢敬雄

友の会の皆様を  
始め関係者の皆様、  
こんにちは。日頃は  
友の会の発展にた  
くさんの支援と協  
力を頂き感謝致します。

令和7年度の行事は、5月18日には約  
120名と多くの参加を頂き『第20回  
市民フォーラム』を開催、8月31日には初  
の試みで『第1回加藤庸子先生と語る  
会』を開催、10月26日には、115名の参  
加を頂き『第79回鳥羽親睦日帰り旅行』  
を開催致しました。

行事を通して講演会で勉強の場、会員  
の皆様の交流・親睦を図れたと思います。

今年は友の会が発足(1981年)し  
て45年の歳月を迎えますので45周年記  
念誌の発行を計画しています。また秋の  
アジア大会開催の関係で2月に『第21回  
市民フォーラム』、6月に『第80回親睦日  
帰り旅行』、11月に『第2回加藤庸子先  
生と語る会』の開催を計画していますの  
で多くの皆様の参加をお待ちしていま  
す。最後に皆様の健康とご多幸を祈念し  
ながら挨拶とさせて頂きます。

ごあいさつ



問合せ等連絡先(事務局): 〒454-8509 名古屋市中川区尾頭橋 3丁目 6番 10

藤田医科大学ばんだね病院脳神経外科医局内 Fujita 脳神経外科友の会 事務局 宛

TEL: (0561) 38-7220 FAX: (052) 323-5800 Mail: neuron2@fujita-hu.ac.jp

友の会携帯 TEL: 080-9739-7220 Mail: tomonokai7220@gmail.com

年会費&寄付金は以下友の会口座

●郵貯銀行 00890-4-122272 ●岡崎信用金庫 豊明支店(普) 9009554

友の会ホームページ QR コード

<https://fujita-tomonokai.com/>





友の会の皆様、こんにちは。もうまもなくクリスマス、2025年も終わろうとしていますがいかがお過ごしでしょうか？

今年も10月まで夏日が続いていたかと思えば秋を飛び越してすぐに冬になってしまいました。ドングリや椎の実も不作で熊たちが餌を求めて町に出現するようになり、熊による被害者が毎日のように報道されています。子熊を見るとかわいそうな気持ちになりますが必要親が近くにいるので危険な状態です。考えてみれば山は熊たちの先住の地であつたのでしょうか。

その一方人間界ではAIの世界が激しい勢いで進化し、自分のアバターもできる時代になってきました。今、アバターは人間がコントロールしていますがたとえば将棋界では羽生九段や藤井六冠でもAIには勝てないそうです。更にAI同士での試合では名人たちですら何をやっているのかわからないということです。もしもAIが己の意思で動きだした時、人間はそれに対抗する手だて

を持たないかもしれません、そうなるターミネーターの世界は本当にやってくるかもしれません。

紀元前は何万年の時の流れで変わり、奈良、平安から江戸時代までは何千年の流れで変化してきました。これが明治から現代は100年で大きな変化を遂げています。車が空を飛び、宇宙に行くというのは何十年の流れで時代が変わっていくのではないのでしょうか。我々年寄もおいでいれないように努力が必要です。

医学も私の若かりし頃はCT、MRのない時代から始まり、いっきに画像診断が出来るようになり、クリップから今では血管内治療ができるようになりこのスピード感に驚いておられますがまだまだ完成形ではないので、安全に患者さんを守らなければならない慎重さが必要です。インド、コルカタで2018年に立ち上げたサノ&セングプタ脳動脈瘤手術アカデミーは、年に数回の手術指導、コロナで一旦中断はしたものの今も続いております。セングプタ先生は、インドには医学部が少ないとのこと87歳にしてコルカタに大学病院を建設しようと計画しておりますが訪印の際に広大な土地を見学に行つてまいりました。現在、指導に行つておりますINK病院の16周年の式典が今年の4月に行われ、インドのデビスカッププレーヤーでバシ選手と世界一になったパエス選手とともに壇上でお祝いの挨拶をさせていただきました。ただきました時に一緒にテニスしようとか約束をしたことが大学病院完成まで4、5年かかるとのこと、その時に約束、私の夢を果たせるように健康でいたいものです。夢を持つことがいつまでも若くいられるのではないかと思います。そこで皆さんも是非、夢を持って生きていつてほしいと思います。

2026年も健康で輝かしい年になりますようお祈りいたしております。



白馬セミナー



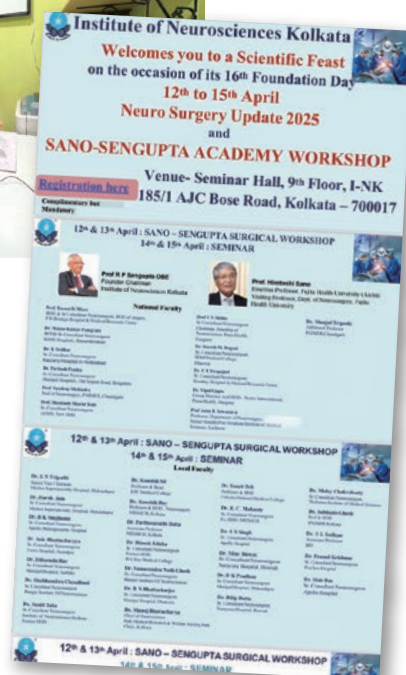
第79回親睦旅行(2025.10.26鳥羽シーサイドホテル)

## インドコルカタINK病院 16周年記念セレモニー

### NEUROVASCON 2025 MUMBAI (2025.9.26~28)



### SANO-SENGUPTA ACADEMY WORKSHOP (2025.4.12~15)



# 新年のご挨拶

友の会

2025を振り返って



Fujita 脳神経外科 友の会 顧問  
藤田医科大学ばんだね病院  
脳神経外科 教授・統括副院長  
ストロークセンターセンター長

加藤 庸子

支えてくださった役員の皆様、そして何より患者様との深い絆が、この会をここまで導いてくださいました。

2025年は、「新しい友の会の時代」へ向けての第一歩の年でもありました。

第20回市民フォーラム、初の試みとなった「語る会」、そして恒例の第79回鳥羽旅行や病院内演奏会など、笑顔と対話に満ちた行事を通して、人と人とのつながりの温かさを改めて感じる一年でした。

これからの医療は、技術の進歩とともに、コミュニケーションがますます大切になっていきます。医療者と患者様、地域と病院、そして友の会のお仲間たち。その心の通い合いが、安心と希望の医療を

生み出す力になると信じています。

ばんだね病院は今後、地域のハブ病院として連携医療機関との緊密な連携を図り、予防から治療、リハビリ、在宅まで切れ目のない支援を推進し、皆様の健康寿命の延伸に貢献してまいります。

今後も脳神経外科チーム一同、最先端の治療と心のこもった医療を両立させ、皆様に「ここで治療を受けてよかった」と感じていただけるよう努力してまいります。

どうぞこれからも健康を大切に、明日への希望を胸に、共に歩んでまいりましょう。

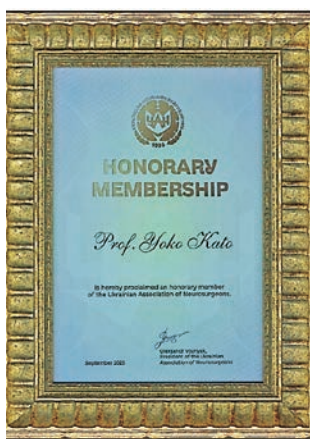
皆様のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



第8回ばんだね病院ウインターセミナー（2025年2月8日～13日）



加藤庸子先生が世界脳神経外科学会連盟(WFNS)からScoville賞を受賞 (2025年12月1日・ドバイ)



Scoville賞を受賞の祝い会

# 脳神経外科友の会に寄せて



藤田医科大学  
ばんたね病院病院長

堀口 明彦

脳神経外科友の会の皆様におかれましては、ばんたね病院の発展にいつもご指導いただき心から感謝申し上げます。

10月1日付で小松文成先生がばんたね病院脳神経外科教授に就任されました。小松教授は三叉神経痛の内視鏡手術では世界でも有数な先生であり、加藤庸子統括副院長の愛弟子であります。ばんたね病院の特徴がまた一つ増え、院長として鼻が高い今日このごろです。

日本全国で国公立の8割の病院が赤字経営となっていることが問題になっています。物価高騰、働き方改革に伴う人件費増加などが原因とされています。また、患者さんにとって良質な医療の提供ができなくなると、負のサイクルとなっていくことが予想されま

す。一方、ばんたね病院は医師の働き方改革のみならず、医療に関わる職員全員の働き方改革に取り組んでいます。医療DX、タスクシフト、タスクシェアなど無駄を省く働き方を職員一丸で行っています。職員皆様の尽力の成果により、来年度から新病棟建て替えをはじめ、来年度から新病棟建て替えをはじめ、新病棟の設立により、病院機能をさらに向上させ安心・安全な医療を提供するよう使命感をもって取り組む所存です。来年春季からの工事により、脳神経外科友の会の皆様におかれましては、ご迷惑をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

ばんたね病院は2026年度も高い目標をもち、日本一の総合診療を基盤とした都市型地域支援中核病院をめざしていく所存です。

引き続き脳神経外科友の会の皆様のご支援・ご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

脳神経外科友の会会長の金沢敬雄様はじめ、役員および会員の皆様の益々の発展とご健康を祈念いたします。



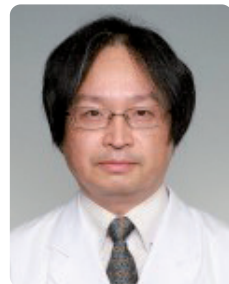
新病棟完成図

# 健康コラム

## 「認知症は予防できる??」

藤田医科大学ばんだね病院 脳神経内科 教授

伊藤 瑞規



現在、認知症は要介護の状態になる原因疾患の第一位で、18%程度を占めています。介護を要するような状態になってしまう認知症には、おそらく誰もがなりたくないと思っています。しかし、残念ながら、認知症は高齢になるにしたがい、その有病率が増えるため、今後さらに高齢化が進むと、認知症の患者数は増加していくと思われます。

2022年に行われた調査の結果、全国で認知症の患者数は443万人、認知症の一手前の軽度認知機能障害は559万人程度と試算され、2040年には65歳以上の高齢者の7人に1人が認知症になると試算されました。この患者数を多いと思われるかもしれませんが、2012年に行われた調査では、全国で認知症の患者数は462万人、軽度認知機能障害は400万人程度と試算され、2025年には65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症になると試算されていました。このように、10年間で65歳以上の高齢者数は500万人強増えたにもかかわらず、認知症の患者数は減っていたのです。

認知症患者数が減っているという事実は、認知症の発症を予防することができるのではないか、と思わせます。実際、認知症の修正可能な危険因子として、45歳以下の低教育歴、45歳から65歳以下の聴覚障害、高LDLコレステロール血症、うつ病、外傷性脳損傷、運動不足、糖尿病、喫煙、高血圧、肥満、過度のアルコール飲酒、65歳以上の社会的孤立、大気汚染、視力障害が挙げられています (Livingston Gら, Lancet. 2024)。これらのうち、喫煙は禁煙することで、高血圧や糖尿病、高LDL-C血症などは、より良い内服薬の開発によりコントロールが良くなることで、認知症の予防につながるかもしれない、いわゆる成人病と言われる疾患のコントロールが以前よりも良くなったことが認知症患者数の減少につながった可能性があります。

その他、多くの趣味を持つことや運動も認知症の予防効果があるとされています。有名なアメリカのノートルダム教育修道女会にいるシスターを対象にした研究では、生前、認知症ではないと思われていた高齢者でも、解剖して、脳をのぞいてみると重度の認知症の病変を認めていたことが報告されています。つまり、脳が認知症になるような病変を認めていても、シスターのように多くの人と触れ合い、社会貢献活動を行うなど、活発に様々な活動を行うことで、死ぬまで認知症と思われないような状態を保つことができる可能性があるのです。

皆様も、認知症を予防しようと思われるのであれば、家に閉じこもり、一人でテレビを見ているなどを避け、できるだけ、外へ出て、多くの人と触れ合い、様々なことに興味を持って活動するなど、をこころみてはいかがでしょうか。

## 日常生活の中で腎臓を守るポイント

藤田医科大学ばんだね病院 腎臓内科 講師

立俵 良崇



この度は、歴史ある「Fujita脳神経外科友の会」会報誌にコラムを寄稿する機会をいただき、心より御礼申し上げます。ばんだね病院腎臓内科の立俵良崇(たてまつよしとか)と申します。本稿では、「日常生活の中で腎臓を守るポイント」について、お話しさせていただきます。

腎臓は腰の背中側に左右1つずつ位置する、握りこぶしほどの大きさの臓器です。心臓から大動脈を通じて送られる血液を濾過し、不要な代謝産物や水分、電解質を尿として体外へ排出しています。腎機能が低下すると、これらの水分や代謝産物(尿毒素)が体内に蓄積し、重症化すれば血液透析や腎移植といった腎代替療法が必要になります。ところが腎臓は、相当進行するまで症状が現れにくいので、肝臓と同様に“沈黙の臓器”と呼ばれています。

腎臓を守るためのポイントの1つ目は、年1回は健診あるいはかかりつけ医で腎機能を評価してもらうことです。腎機能評価の指標として重要なのは、GFR(糸球体濾過量)と尿蛋白の有無です。

2つ目は、脱水を避けることです。腎臓は十分な血流があってこそ、尿を作る働きが維持されます。熱中症を避けるためにも、炎天下での作業は最小限にし、こまめな水分補給を心がけてください。サウナを利用する際も、必ず飲水を忘れないようにしてください。

3つ目は、薬の飲み合わせに注意するため、お薬手帳を必ず持参することです。とくに高齢の方では複数の疾患を抱え、複数の医療機関から多種類の薬剤が処方されることがしばしばあります。腎臓は血流低下に弱いため、降圧薬・利尿薬・消炎鎮痛薬(痛み止め)を長期間併用すると、腎機能が悪化する場合があります。ご自身の処方内容を医療機関同士で共有できるよう、ぜひお薬手帳を持参して受診してください。もちろん、医師が腎機能への影響を把握したうえで処方している場合もありますので、自己判断で薬の中断はせず、主治医に相談するか、腎臓内科へ紹介受診していただければ最適な薬剤選択を検討いたします。

## 口を元気にする取り組み ―口活ワーク―

藤田医科大学ばんだね病院 副院長・看護部長

三鬼 達人



友の会の皆さま

私たちは「食べる」「話す」「笑う」など、毎日さまざまな場面で「口」を使っています。そんな大切な口の健康が、実は全身の健康にも深く関わっていることをご存じでしょうか。

人生100年時代を迎えた今、長生きが当たり前の時代になりました。しかし、ただ長く生きるだけでなく、できるだけ元気に、そして楽しく過ごしたいものです。そのためのカギのひとつが「口の健康」です。年齢を重ねると、噛む力や飲み込む力が少しずつ弱くなり、硬いものが食べづらくなったり、むせやすくなったりします。こうした状態を「オーラルフレイル（口の虚弱）」といいます。最初はちょっとした変化でも、放っておくと食事が減り、筋力が落ち、転倒や病気のリスクが高まる可能性があります。けれども、日々のちょっとした工夫で、この流れを止めることができます。それが「口を元気にする活動＝口活（こうかつ）ワーク」です。

たとえば、好きな歌をカラオケで唄ったり、口の体操である「あ・い・う・え・お」や「パ・タ・カ・ラ」とゆっくり大きく発音したり、ほっぺをふくらませたり、口をすばめたりするだけでも、口のまわりの筋肉をしっかりと動かすことができます。これらはお風呂の中やテレビを見ながらでも手軽にできるので、習慣にするとよいですね。また、食事のときに「よく噛む」ことも立派な口活です。噛む回数が増えると唾液がたくさん出て、消化を助けるだけでなく、お口の中を清潔に保つ働きもあります。いつもの食事に「たくあん」など、よく噛む食材を意識的に取り入れることも大切です。さらに、口の健康は食事や運動とも深くつながっています。お肉や魚、豆製品などのたんぱく質やビタミンをしっかりと摂り、体を動かすことで筋力を維持することが、元気な「口」と「体」を支えます。

歯磨きや舌のケアも欠かせません。お口の中にはたくさんの細菌がいて、歯や舌の汚れをそのままにしておくと、歯周病や口臭の原因になるだけでなく、誤って肺に入ると「誤嚥性肺炎」を起こすこともあります。歯ブラシは鉛筆を持つように軽く握り、歯と歯ぐきの境目をやさしく磨くのがコツです。必要に応じて舌も磨きましょう。鏡を見ながら磨くと、意外な磨き残しに気づくかもしれません。定期的に歯科を受診して、プロのチェックを受けることもおすすめです。

「口は健康の入り口」と言われます。おいしく食べて、たくさん笑って、元気におしゃべりできる毎日は、きっと心まで明るくしてくれるはずです。

今日からできる“口活ワーク”、あなたも始めてみませんか？

## 「人生会議」のススメ ―もしもの時も、自分らしく―

藤田医科大学 病院統括本部 統括看護部長

眞野 恵子



Fujita脳神経外科友の会の皆様、こんにちは。

「人生会議」という言葉に、少し重いイメージを持たれる方もみえるかもしれません。しかし、これは「もしもの」時に備えて、自分らしい生き方を最後まで貫くための大切な準備です。特に、脳の病気と向き合っている皆様とその家族にとって、この話し合いは大きな意味を持ちます。

### 脳の病気と「人生会議」

脳卒中や脳腫瘍などの病気は、ある日突然、ご自身の意思を伝えることが難しくなる可能性があります。家族が代わりに判断しなければならぬ状況も少なくありません。その際、日頃から「人生会議」を重ねていれば、本人の意思が尊重され、家族も「本人の思いに沿った選択ができた」と、後悔のない意思決定ができるようになります。

### 人生会議で話し合っておきたいこと

人生会議に決まった形式や内容はなく、家族や医療者と日々の何気ない会話の中で話し合っていくことが大切です。特に考えておきたい項目をいくつかご紹介します。

- ・「私にとっての幸せ」を考える：延命治療を望むかどうかの前に、「どのような状態なら自分らしくいられるか」を考えてみましょう。
- ・「望む医療とケア」を伝える：どのような医療を受けたいか、逆に受けたくないか話し合っておくことで、いざという時の選択肢を明確にできます。
- ・「誰に託すか」を決めておく：意思決定が難しくなった場合に、あなたの代わりとなって意思を伝えてくれる人を決めておきましょう。家族と事前に共有しておくことで、負担を軽減できます。
- ・「最期を過ごしたい場所」を考える：病院、自宅、施設など、人生の最期をどこで迎えたいか、思いを伝えておきましょう。

### 始めるタイミングは「今」から、繰り返し

人生会議は、一度きりの話し合いで完結するものではありません。病状や体調、気持ちの変化に合わせて、話し合いを重ねていくことが重要です。

- ・体調の良い時に始める：精神的に落ち着いている時に、ゆっくりと話し合う時間を持ちましょう。
- ・日常の会話から始める：テレビの医療ドラマやニュースをきっかけに、「自分だったらどうするかな」と話してみるのも良いでしょう。
- ・医療・ケアチームを頼る：不安な点があれば、医師や看護師などにご相談ください。専門的な立場から、話し合いのサポートをさせていただきます。

### 家族と、そして自分と向き合う時間

人生会議は、死と向き合うことではなく、人生を豊かに生きるための時間です。ご自身が大切にしている価値観を再確認し、それを愛する家族と分かち合うことで、日々の暮らしがより一層、意味のあるものになるはずです。

「もしもの」時に後悔を残さないために、将来を予測し、未来に自分の意思を伝えるために「人生会議」を始めてみませんか。

# 活動報告

## 第8回 藤田医科大学ばんだね病院 ウインターセミナー エクスカーション

発展途上国等の若手脳外科医(約40名)を招き第8回 藤田医科大学ばんだね病院ウインターセミナーが2025年2月8日～13日に加藤先生主催で開催されました。

中間の祝日2月11日には、息抜きでエクスカーション(名古屋市内観光と蒲郡竹島ホテル昼食会等)を友の会主催行事として開催させて頂きました。

当日はバスで名古屋城等の名古屋市内観光後、蒲郡竹島ホテルで昼食会&勉強会等、帰路オレンジパークでいちご狩りを楽しんで頂きました。



名古屋城バックに集合写真



ウインターセミナー参加の皆さん



城内見学



城内見学



城内見学の金沢会長と神谷相談役



参加者の皆さん



金沢会長挨拶



参加者集合写真



ホテル竹島食事会



ホテル竹島食事会



## 第20回市民フォーラム



### 参加御礼

友の会副会長 安藤 謙

2025年5月18日に第20回市民フォーラムを名鉄グランドホテル11階の柏の間で開催致しました。

当日は前日の悪天候も回復し、ほぼ満席となる約120名と多くの方に参加頂きました。

講演の前、無料医療相談コーナーでは3名の看護師による健康相談を多くの方が受けられました。

また講演前のアトラクションでは、『ヴァイオリンとチェロのデュオ演奏』と『笑いヨガ』で楽しんで頂いたあとに、4名の方に講演して頂きました。

講演1 高木亜紗恵様(共同通信社)の「生体肝移植を受けて」、

講演2 伊藤瑞規教授の「認知症診療の最近の話題」、

講演3 眞野恵子統括看護部長の「人生会議～ありのままの自分で生きる～」、

講演4 三鬼達人副院長・看護部長「口を元気にする活動～口活に取り組みよう～」

どの講演も解りやすく説明頂き参加の皆様から多くの質疑もあり、有意義な講演となりました。

2026年の第21回市民フォーラムは、2月22日に名鉄グランドホテル11階の柏の間で開催しますので皆様の参加をお待ちしています。

**第20回市民フォーラムプログラム**

◆日 程 : 2025年 5月18日(日)  
◆時 間 : 受付開始:13:00～ 無料医療相談:13:00～14:00  
名鉄グランドホテル 11階 柏の間  
〒465-0002 名古屋市中村区名駅1-2-4  
TEL: 052-905-2711

◆参加費 : 無料 (どなたでも参加頂けます) ※申込不要  
◆主 催 : 「ふくふく」神経外科友の会  
後援 : 金沢会館、フジテレビ、加藤子(ぼん)ね病院 脳神経外科 教授、健信副院長

司会 : 加藤子先生、友の会副会長  
無料医療相談:13:00～14:00  
長崎・中崎・中村看護部の医師相談

アトラクション:13:40～14:10  
●中村真帆(ヴァイオリン)・加藤志麻(チェロ)のデュオ  
13:40～13:55  
●中村緑の笑いヨガ(音楽 いいね道場 代表)  
13:55～14:10

**第20回 市民フォーラム:14:10～16:00**

開会の挨拶 : 金沢会館「ふくふく」神経外科友の会 会長 14:10～14:15  
加藤子(ぼん)ね病院 脳神経外科 教授 14:15～14:20

<特別講演>

講演1 「生体肝移植を受けた」  
時 間:14:20～14:40  
講演者: 高木亜紗恵  
(共同通信社 名古屋支社 記者)

講演2 「認知症診療の最近の話題」  
時 間:14:40～15:05  
講演者: 伊藤瑞規 先生  
(名古屋大学 脳神経科 教授)

講演3 「人生会議～ありのままの自分で生きる～」  
時 間:15:05～15:25  
講演者: 眞野恵子  
(名古屋大学 看護学 統括看護部長)

講演4 「口を元気にする活動～口活に取り組みよう～」  
時 間:15:25～15:55  
講演者: 三鬼達人  
(名古屋大学 脳神経科 副院長・看護部長)

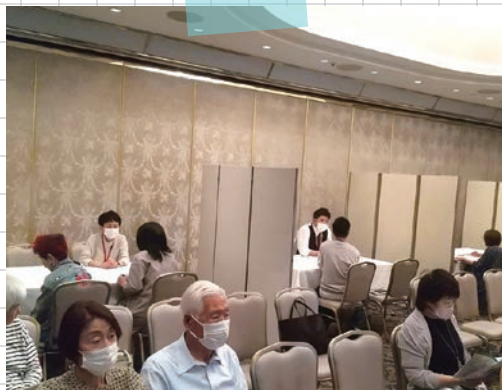
閉会の挨拶: 脳神経外科友の会 副会長 15:55～16:00



第20回市民フォーラム開催記念として  
参加者にタッチペンを配布



受付役員の皆さん



無料医療相談コーナー



金沢会長の挨拶



加藤庸子先生の挨拶



顧問の加藤先生にお礼の花束贈呈



アトラクション1(中村真帆様ヴァイオリン・加藤志麻様チェロのデュオ)



アトラクション2(中村緑様の笑いヨガ)



講演会場



高木様講演



伊藤教授講演



眞野部長講演



三鬼副院長講演



運営スタッフの皆さん



## 第79回友の会親睦旅行



バス1号車の皆さん



バス2号車の皆さん



バス3号車の皆さん



3号車バス内

### 参加御礼

友の会副会長 安藤 謙

2025年10月26日に第79回友の会親睦鳥羽旅行をバス3台で総勢115名の参加を頂き開催しました。

行きのバス内ではカラオケ等、鳥羽シーサイドホテルの食事会では、会員の方のピアノ演奏、手品、ハロウィン…、歌などを楽しみながら親睦交流を図りました。

食事後の勉強会では、立峯先生の腎臓病の講演と眞野統括看護部長の人生会議のミニ講演+もしバナゲームでは、ゲームを通じて、人生において大切な「価値観」や、自分自身の「あり方」について様々な気づきを得るきっかけになったと思います。

2026年の第80回親睦旅行は、6月7日に琵琶湖温泉で計画していますので皆様の参加をお待ちしています。



1号車バス内



2号車バス内



佐野先生挨拶



加藤先生挨拶



永井副会長



眞野部長・加藤先生



眞野統括看護部長挨拶



三鬼看護部長挨拶



立姿先生講演



眞野統括看護部長の講演



佐藤奈菜様の演奏



堀千尋様の手品



もしバナカードゲーム



看護師留学生ハロウィン



カラオケ



食事会



食事会



食事会



佐野先生加藤先生



留学生の皆さん



リフト乗車



スタッフ集合写真

# 第1回加藤庸子先生と語る会

## 参加御礼

友の会副会長 安藤 謙

2025年8月31日に『第1回加藤庸子先生と語る会』をウイングあいち13階で開催致しました。

日頃外来診察時に加藤先生と話す時間が欲しいとの声を多くの方から聞いていましたので今回初の試みで開催しました。

当日は名古屋の最高気温が夏一番の40℃の中、約60名と多くの方に参加頂きました。

佐藤奈菜様のピアノ演奏の後、前半は応援トークで3名の先生方に講演を頂きました。

講演1 武藤久哲先生(消化器内科)の「ALT30超えは“肝臓からの赤信号”」、

講演2 加藤宏之先生(消化器外科)の「胆膵疾患の最新治療」、

講演3 片方容子看護副部長の「看護の現場から～心に届くケアを目指して」、

どの講演も解りやすく説明頂き参加の皆様から多くの質疑もあり、有意義な講演となりました。

後半は、加藤先生から講演を頂いた後、事前募集の質問事項等をもとに参加者との話し合いに多くの方に参加頂きました。

2026年の『第2回加藤庸子先生と語る会』は、11月頃に開催を計画中ですので皆様の参加をお待ちしています。



受付役員の皆さん



金沢会長の挨拶



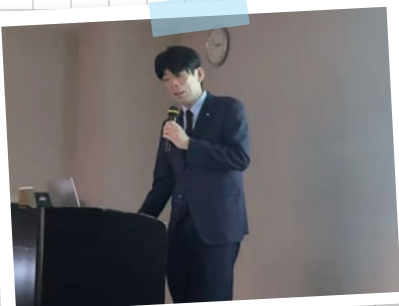
加藤庸子先生の挨拶



佐藤奈菜様のピアノ演奏



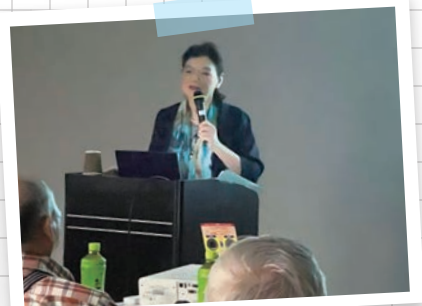
武藤久哲先生の講演



加藤宏之先生の講演



片方容子看護副部長の講演



加藤庸子先生の講演



講演会場



講演会場



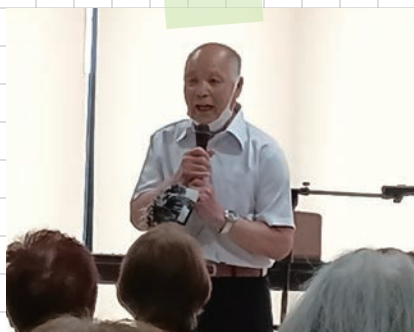
運営スタッフの皆さん



## ばんたね病院演奏会(脳神経外科友の会共催)

7月12日(土) 14:30～

松永有希子様(ピアニスト)と山田洋資様(トランペット奏者)の演奏会では、入院患者様をはじめ多くの方に演奏会を楽しんで頂きました。



金沢会長挨拶



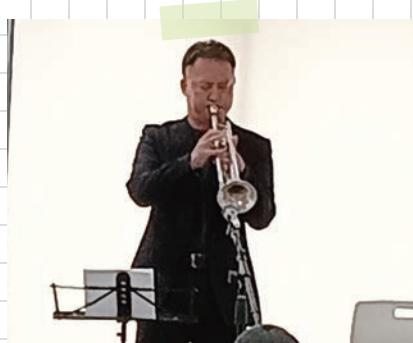
加藤先生挨拶



案内チラシ



演奏会(ばんたね1F)



山田洋資様のトランペット演奏



松永有希子様のピアノ演奏

8月30日(土) 14:30～

佐藤奈菜様(ピアニスト)と加藤訓音様(津軽三味線・民謡)の演奏会では、入院患者様をはじめ多くの方に演奏会を楽しんで頂きました。



佐藤奈菜様のピアノ演奏



金沢会長挨拶



加藤先生挨拶



案内チラシ



演奏者お礼



演奏会参加の皆さん



演奏会(ばんたね1F)



加藤訓音様の三味線演奏

# おたよりコーナー

## ウィンターセミナー感想文

### 第8回藤田・ばんたね ウィンターセミナー エクスカーションの共催について

副会長 永井 太

昨年の秋頃、加藤先生より「2月にエクスカーションを実施するから、行程を作って」とご依頼を頂いたことから、当エクスカーションにご縁を頂くこととなりました。

オーダーは近場で、外国の方が喜びそうな場所ということ、名古屋城、熱田神宮は是非とも組み込んでもらいたいとの内容です。

頭に浮かんだ行先はコロナ明け最初の友の会バス旅行で訪問した蒲郡・竹島でした。

行程は、ご依頼の2カ所以外に外国の方が、経験をしたことの無いような催しを入れることとし立ち寄り先は蒲郡オレンジパークでの「いちご狩り」としました。

当日の反応はどうか、皆さんに受け入れて頂けるか内心は心配しながら、旅行当日を迎えることとなりました。

旅行日は2月11日と寒い時期ではありましたが、天気は快晴。まずは一安心です。あとは参加者がお城や神社に興味を示していただけるか、ホテル竹島での日本食は気に入ってもらえるか、そして、いちご狩りは納得してもらえるかと内心ドキドキの旅となりしました。友の会が共催であり、かつ自身でプランを作成するという重責でしたが、おっかなびつくりの旅行でしたが、ホテルでは温泉を楽しむ方や、いちご狩りで「オイシイ」とおっしゃって頂ける方など、ご満足



いただけたのではないかと思っています。  
折角、ウィンターセミナーで日本にお越しいただいたのに、嫌な思いを持って帰国では、些か申し訳ありません。まずは喜んでいただけたものとホッとした次第です。

今後も、加藤先生が実施される各種イベントには友の会共々、精一杯頑張っていきますので、今後ともよろしくお願い致します。

### 留学生との交流

副会長 檜岡 純子

留学生ウィンターセミナーの一環であるエクスカーション(体験型見学会)へ参加させていただきました。皆さん加藤庸子教授の下勉強の日々ですが、この日は名古屋城、熱田神宮等日本文化に触れたり、一緒にみたらし団子を食べたり、初体験のいちご狩りにわくわくしたりとリフレッシュされたことと思います。私も久しぶりで、ガイドさんの説明で初めて知ったこともあり新鮮でした。

私は、日本語以外は話せませんが英単語オンパレード、ジェスチャーでコミュニケーションを図り脳活もさせていただきました。

留学生の方々の方々の志の高さ、感謝の気持ちを持っていてる姿に私も見習わなければと強く感じた一日でした。感謝



## 市民フォーラムによせて

役員 丸山 文字

2025年5月18日に第20回市民フォーラムが名鉄グランドホテルで開催されました。4つの講演があり、印象的だったのが「生体肝移植を受けて」のお話です。命を救う為に、ご家族皆様が臓器提供を希望されたこと、手術後の辛いリハビリのこと、大変な体験を乗り越えて社会復帰されたこと。家族の絆、ご本人様の強い意志は笑顔の日常を取り戻しました。

そして藤田医科大学病院 統括本部 眞野恵子 統括看護部長様「人生会議ありのままの自分で生きる」です。人生を豊かに自分らしく生きるために準備が大切なこと、いくつかの項目と向き合い話し合いをしていくこと。いい人生だったと思える生き方を学び、友の会旅行での講演では再確認できました。

加藤庸子教授はじめ、先生方、看護師の皆様ありがとうございました。

第21回市民フォーラムは、2026年2月22日名鉄グランドホテルで開催されます。多くの皆様に参加して頂けることを願い、今後もしようなくお願い申し上げます。

## 第20回市民フォーラムに参加して

役員 吉川 賢二

5月の市民フォーラムの伊藤先生による認知症

の最近の話題の講演を聞きました。

人間は高齢になると、①血管性、②アルツハイマー、③レビー小体型、④全頭側側頭葉変性、①②③④の症状により、認知症になります。特に血管性認知症が多いようです。脳梗塞、脳出血が認知症の主要原因です。

私は糖尿病にて血糖値が高く、加藤先生より入院をすすめられ、食事療法、1日1600カロリー以下の生活です。内容は、栄養指導、3階にて運動療法を毎日懸命にしました。毎日腹が減り、水を飲んだりと努力しました。おかげで血糖値も下がり3週間入院にて健康な身体になりました。

友の会旅行にて、佐野先生は認知症は人に何かして貰うのではなく、人に何かをすることが認知症にならないとの事。年をとつても毎日前向きに元気に生活するとの事です。

## 第20回 市民フォーラムに参加して

役員 宮崎 聖

5月の名鉄グランドホテルで開催された市民フォーラムは、多岐にわたる重要なテーマが取り上げられました。

特に印象的だった事は、単なる病気治療に留まらない、「その人生をまると支える医療」への視点です。

「生体肝移植」は自ら経験者が語り、「認知症医療」は超高齢化社会における生活の質の維持を

示唆しました。

「人生会議（ACP）」は自分の意思を尊重する準備を語り、「口を元気に」というテーマは、食べる楽しみを誤嚥予防という近い将来の必要な健康維持の基盤を再認識させた事です。

私は、高度な医療技術から日常の健康、そして尊厳ある終末期まで、人の充実した人生を送るために欠かせない要素等を包括的に示す講演は、考えさせる機会になったと思いました。



# 加藤庸子先生と語る会感想文

## 「加藤庸子先生と語る会」感想文

役員 田中 実

2025年8月31日、ウイנקあいちにて開催された「加藤庸子先生と語る会」に参加し、医療の最前線で活躍される先生方の貴重なお話を伺うことができて、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。各分野の専門家による応援トークは、それぞれの視点から健康と医療の本質に迫る内容で、大変印象深いものでした。

まず、消化器内科の武藤久哲先生による「ALT30超えは肝臓からの赤信号」という講演では、日常的な健康管理の重要性を改めて認識しました。ALTが30を超えるだけで既に赤信号！驚きました。会場の参加者の質問に対し、今は肝臓の値が正常だからといって、以前数値が悪かった場合、後に正常値になっても安心できないとの先生のご教示にはアルコールが大好きな私には心え、食生活を見直さねばと反省しています。

続いて、消化器外科の加藤宏之教授による「胆膵疾患の最新治療」では、技術革新と医療現場の進化が患者の希望につながっていることを実感しました。治療法の進歩は、医療従事者だけでなく、患者や家族にとっても大きな希望となります。発見が困難な病気は非常に怖いものと実感し、改めて膵臓がん検診の必要性を感じました。

看護師の片方容子さんによる「看護の現場から心に届くケアを目指して」では、医療の根底にある「人と人とのつながり」の温かさを感じました。患者の心に寄り添うケアのあり方は、医療の質を

高めるだけでなく、命に向き合う現場において欠かせない視点であると感じました。このばんたね病院には患者に寄り添って診療、治療をして頂ける先生、看護師の方ばかりと感っていました。が、社風（院風）なのではないでしょうか。

最後に、我が加藤庸子先生による質疑応答では、時間は少な過ぎたものの、加藤先生の人柄と情熱が伝わる時間となり、会場全体が温かい空気に包まれていました。

今回の会を通じて、医療とは単なる技術や知識の集積ではなく、「人を思う力」が根底にあることを改めて感じました。今後の自分自身の健康との向き合い方や、医療との関わり方を見つめ直すきっかけとなる、非常に有意義な時間でした。

堅苦しい講演会ではなく、誰もが気楽に参加でき、医療の責任者である先生方の貴重なお話を聞くことが出来たと思ひ、この「加藤庸子先生と語る会」は更に気楽に参加できる会として脳神経外科友の会の会員に広く知れ渡ることを期待いたします。

## 「加藤庸子先生と語る会」に参加して

役員 飯田 眞理子

2025年8月31日(日)13時30分ウイנקあいち、暑い中沢山の方々に参加していただきありがとうございました。

武藤久哲先生、加藤宏之先生、片方容子看護師、3人の方々の公演から始まり大変勉強になり

ました。ありがとうございました。その後加藤庸子先生と語る会が始まり、1人の方だけ手をあげて下さりお話しが始まったのですが、もつと沢山の方々のお話しで加藤先生とのやりとりを聞きたかったと思いました。次回また加藤庸子先生と語る会ができるのなら、皆さんとの会話が言葉のキャッチボールをお聞きたいと思います。

## 加藤庸子先生と語る会に参加して

役員 中川 早苗

ウイנק愛知のセミナーの日は、とても暑い日にも関わらず沢山の参加者さんが見えになりました。

まず最初は爽やかなピアノの演奏でした。暑い夏を忘れてしまいそうな音色で癒されました。

次に先生の講義でした。全て勉強になりましたが、その中でも印象的でしたのが膵臓がんのお話でした。私事ですが、数十年前に私は膵臓がんの親友を亡くしました。私の中では、膵臓がんは不治の病でした。しかし、ばんたね病院は、膵臓がんの治療が進んでいるのに、とてもビックリしました。手術されて通常の生活をされている方のお話を聞いた時は、とても感動いたしました。ばんたね病院の先生方のご苦勞に感謝致しました。



## 鳥羽旅行の感想文

### 鳥羽日帰りバス旅行に今年も親子で参加させていただきました。

会員 出山 恭子

今年のバス旅行を前に、母は6月に1ヶ月間ほどばんだね病院へ入院をしたり、その後も救急車のお世話になったりしましたので、10月に元気で参加ができるのだろうか、申込時には少し不安を抱えていました。

でも、カレンダーに大きくバス旅行の予定を書いておいたのがよかったのか、楽しみが健康に加勢をしたようです。

昨年に増して少しずつ足が弱ってきている母ですが、今年もまた車椅子を頼らずに名鉄のホームから杖をつきながらゆくり歩いてなんとかバスの集合場所まで行くことができました。

(いつものことですが、駅のホームから集合場所までが私達親子にとって最難関です・笑)。

そこからは看護師さんをはじめ皆さんに大変よくしていただき、私まで安心して1日楽しく過ごさせて頂きました。

帰り際に同じバスだった方から「また来年も来ましようね」と母に声を掛けていただき、私もとても嬉しかったです。

母への刺激だけでなく、私の心をも満たしてくれ、このバス旅行に感謝するとともにまた次回も参加することを目標にしたいと思います。

最後に、役員のみなさまどうもありがとうございました。

### 鳥羽旅行の感想文

会員 河村 登

鳥羽日帰り旅行ではお世話になりました。

私は病院と同じ町内に居住しており、友の会へ入会は三年目ですが、今回初めて参加をさせて頂きました。集合場所の受付及びバス車内での看護師様役員の皆様及び、バスガイドさんの気遣いで大変楽しくカラオケなどで過ごさせて頂きました。

参加者の皆さんの自己紹介での話をうかがい皆さんの病院への感謝と信頼の気持ちがよく分かりました。勉強会での事ですが、立派医師の腎臓についての講演は私にとって大変勉強になりました。私事ですが妻が長い間腎臓臓診察を受けておりましてクレアチン数値が上がり透析開始の時期になりました時にばんだね病院腎内科の前川医師より移植の可能性の話を頂き、私の思いも移植を希望してましての折でしたので、紹介を頂き八事日赤病院での移植検査の結果移植手術を無事に終えまして今年で七年半過ごしております。術後は妻の日常生活もほぼ支障なく行えてその

機会を作って頂き、感謝のしだいです。今回の講演ではその時の事を思い出し私自身にとっても腎臓の注意意識を再度持つ機会になったと思います。

医師看護師役員の皆様のお世話になり帰宅心地良く過ごさせて頂き感謝しております。ありがとうございました。

### 鳥羽日帰り親睦旅行に参加して

会員 堀部 義則

昨年の秋の旅行日は、わが家の主役であった妻が直前に天に召され、旅行当日が葬儀となった日でした。今回は娘と二人で三人分の気持ちで参加させて頂きました。

加藤先生に優しく声をかけていただき、顔いっぱいに喜びを表していた妻の姿が目につくほどでした。今回の旅行の前日に一周忌を終え、『明日はバンタネツアーに行くよ』と『一緒だよ』と声をかけ今回のツアーに参加し、心安らぐ一日を終えることができました。

加藤先生に叱られ、褒められ、おだてられ、ほぼ植物人間の状態から五年間お世話になりました。三年目に旅行のお誘いを受け、『エッ』と驚くとともに妻は喜色満面『お願いします』とハッキリとご返事をしていたのがつい昨日のようです。

先生をはじめ病院の関係者の方々、そして役員の皆様のキメ細かい、いわゆる万事に遺漏のない諸手配に心より感謝申し上げます。



## バスツアーご参加の皆様へ

副会長 城本 裕二

第79回友の会バスツアーへご参加の皆様、お疲れ様でした。

何より、無事に皆様にご帰宅されたことに安堵いたし、また、感謝いたしております。私が副会長を拝命しまして、2〜3年が経ちます。

加藤庸子先生とは高校時代の同級生で、その縁で、旅行のお手伝い、特に、宴会時のアトラクションのお世話、やって頂ける方を探したり、その場での進行などなど、をさせて頂いてきました。また、金沢会長のお人柄にすっかり惚れてしまい、いつの間にも役員の方達とも懇意にさせて頂きまして、今では、宴会の司会進行等をさせて頂く事に相成りました。

さて、今回のツアーですが、あいにくのお天気でしたが、それにめげず、皆様ほんとに楽しそうに動き回られて、また、バス車中では、賑やかなカラオケ大会もありまして、本当に楽しい一日でした。昼食も、目一杯のおかずがあり、また、移動することなく、その場で、ためになる勉強会もありまして、ほんとに盛り盛りのバスツアーだったと思います。

ご参加の皆様、勉強会の先生方、病院関係の皆様、また、関係各位に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

## 鳥羽日帰りバス旅行に今参加して

役員 深井 泰子

10月26日は友の会の鳥羽日帰りでした。

あいにく朝は小雨が降っていましたが、旅行移動中の車窓から海やのどかな町並みを眺める

だけでも心がほどけ、程よい非日常を味わえる時間でした。

鳥羽シーサイドホテルに着いてからはとても美味しいお食事をいただきました。新鮮な海の幸が豊富で一品一品に鳥羽らしさが感じられ本当に美味しかったです。

アトラクションでは手品で盛り上がり、勉強会は立派な先生の方のわかりやすい腎臓の講座、眞野恵子看護部長の「ありのままの自分で生きる」講座がありとてもためになりました。

大変貴重なお話を聞くことができ、充実した時間でした。

おみやげをたくさん買って皆様もずっと笑顔で充実した1日となりました。本当に楽しく、貴重な時間をすごすことができました。

## 藤田医科大学ばんな病院 脳神経外科友の会 鳥羽旅行 感想文

役員 黒川 哲至

母が倒れてから(2022年1月31日)、まもなく4年が経とうとしています。今回の鳥羽旅行は、母にとって友の会の行事としては2度目の参加となりました。前回は竹島への旅行で、今回の行き先である鳥羽は、母の地元である三重県です。

母は倒れて以降、一度も三重の地を踏むことなく施設に入所しており、もしも一度三重へ行く機会があるなら、ぜひ連れて行ってあげたい、できることなら故郷へ連れて帰ってあげたいという思いが、家族としてずっと心の中にありました。そのような中で今回の旅行に参加できたことは、私たち家族にとって大変意義深いものでした。

また、母が倒れてから父とゆっくり食事をする機会もなく、今回の旅行で久しぶりに親子水入らずで食事の時間を持ったことに、心より感謝しております。

当日はあいにくの悪天候ではありませんでしたが、皆様が大きなトラブルもなく、無事に帰ることができたことに安堵しております。行程を支えてくださったスタッフの皆様、ご尽力を感謝しました。

併せて実施されたセミナーでは、先生方のお話や看護部長のお話を伺い、日常生活においても大変参考になる内容でした。医療の立場からの貴重なお話を直接聞くことができ、有意義な時間となりました。

一方で、出発時に集合場所が分からず戸惑われている方がいらっしゃいました。もう少し分かりやすい案内や、目印となる旗、案内係の方がいらっしゃれば、よりスムーズに時間通りの出発ができたのではないかと感じました。

また、バス内ではカラオケだけでなく、簡単なレクリエーションなどを取り入れ、全員が参加できる時間を設けられれば、さらに一体感のある移動時間になったのではないかと、個人的な反省点として感じました。

このような温かい旅行を企画してくださった佐野先生、加藤先生、そして脳神経外科友の会の皆さまに、一患者家族として心より感謝申し上げます。

次回の日帰り旅行についても、ぜひ参加させていただきたいと思っております。

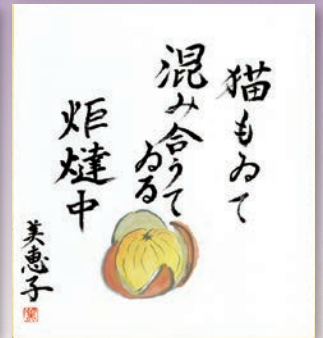
# 俳画 コーナー



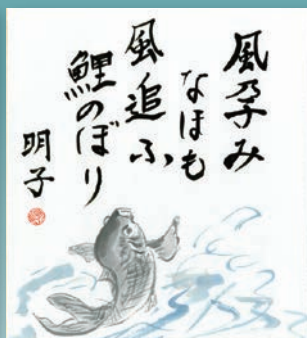
児玉 ゆき江様



神谷 美恵子様



神谷 明子様



竹中 良枝様





## 令和6年度 会計報告 (令和6年4月1日～令和7年3月31日)

収 入	
摘 要	金 額
前年度繰越金（郵貯・岡信口座）	2,207,132
前年度繰越金（現金）	9,802
年会費	1,376,000
寄付金	2,753,380
寄付金（加藤先生特別寄付）	1,000,000
第78回昼神日帰り旅行（参加費・寄付金）	820,000
役員会（参加費・寄付金）	702,000
雑収入（利息）	438
収 入 計	8,868,752

(単位：円)

支 出	
摘 要	金 額
ジーピーセンター印刷費	42,680
会報誌(作成費・会員送付代)	924,474
講演等謝礼等QUOカード	164,560
第19回市民フォーラム等	407,454
ウインターセミナー(excursion)	607,480
第78回昼神日帰り旅行	1,334,645
役員会	713,660
市民公開講座(24.06.30)	96,200
郵送代	119,766
ホームページ(年間費用)	165,165
固定電話料・携帯電話料	82,505
人件費(佐藤秘書)	361,980
寄付(奨学寄付金・医局寄付金)	1,101,925
コピー代・雑費・その他	209,016
次年度繰越金(郵貯&岡信口座)	2,511,183
次年度繰越金(現金)	26,059
支 出 計	8,868,752

(単位：円)

## 寄付者一覧

(2025年1月～12月)

### 寄付受付日順/敬称略

田島 勝  
本間 しづ子  
田島 勝  
吉川 賢二  
加藤 由喜弘  
光岡 典文  
永井 太  
華地山 健市  
華地山 博子  
黒宮 俊明  
小野木 登代子  
田島 勝  
柴田 広光  
山崎 桂子  
渡邊 由利子  
江川 美香  
長谷部 充彦  
堀部 義則  
岩田 美代子  
祖父江 照和  
永野 容子  
市川 富未英  
永谷 了一  
永谷 邦子  
成田 知美  
武田 昭俊  
山室 ちぎ子  
西脇 昌

福島 尚人  
渡邊 良也  
志津野 博行  
今井 保代志  
柘植 しとみ  
伊藤 宏光  
小坂 幸枝  
箕浦 昌美  
森 浩  
山田 浩美  
中澤 やよい  
加藤 悦子  
野口 正利  
林 美智代  
竹内 聡  
中川 善輝  
千賀 昇  
安田 陽子  
横田 康司  
伊藤 文一  
服部 啓子  
西村 文子  
木村 幸夫  
徳倉 美枝子  
永田 範子  
栗脇 美香  
城本 裕二  
堀 英夫

鬼頭 邦義  
山田 哲夫  
秋田 高宏  
井上 操希  
近藤 弘子  
和田 長生  
徳島 豊年  
神谷 康枝  
首藤 日出子  
前田 道子  
小野田 笑子  
成田 千恵子  
小林 幸子  
石黒 幸男  
土平 茂樹  
深谷 ナリ子  
浜田 一徳  
高橋 幸子  
坂田 信子  
森島 光博  
犬伏 邦夫  
高木 玉枝  
飯田 眞理子  
田中 実  
ヤマザキ カズオ  
遠藤 昌世  
和田 正子  
後藤 初子  
伊藤 民樹  
横井 とし子  
神谷 哲夫  
東 陽子

田村 修  
佐藤 ととき子  
佐藤 正  
橋 精子  
ミノグチ アケノ  
野末 美智子  
石川 歌子  
平井 哲・佐代  
左近 治樹  
松嶋 敬子  
石垣 節子  
安藤 謙  
鈴木 勝子  
三宅 洋子  
神谷 道子  
千田 節子  
吉田 久美子  
田中 茂子  
村松 安子  
安藤 静子  
松田 悦子  
鈴木 勝吉  
山本 貴志子  
辻 洋代  
小出 見了  
中嶋 真弓  
中塚 千尋  
鈴木 英輝  
松本 充江  
田中 美子  
田島 勝寛  
横地 寛

横地 小夜子  
榎内 恭子  
石塚 みよ子  
西川 善樹  
北 売子  
竹内 清美  
原 美恵子  
杉山 みつ  
永田 英比古  
西村 郁代  
内田 幸雄  
椎葉 弘子  
椎葉 員見  
石川 明子  
檜岡 純子  
金沢 敬雄  
長縄 佐喜江  
山下 秀三  
飯田 とも子  
杉浦 信次  
杉浦 大輔  
松尾 由香  
村上 弘子  
城石 泰三  
田島 勝  
田久保 喜代美  
村上 弘子  
堀江 美江子  
竹内 紀代子  
近藤功・テツ子  
伊藤 英幸  
山本 豊

村越 照子  
関口 久代  
五十嵐 園子  
加藤 一  
杉本 和代  
水野 佳子  
田島 勝  
中島 勝利  
河野 輝夫  
梶野 仁詞  
近藤 みさ子  
井上 千代恵  
青木 照美  
廣田 茂雄  
山口 勇蔵  
宇佐美 隆史  
川瀬 恒彦  
西川 善樹  
橘谷 たえみ  
大川 陽子  
田島 勝  
大河原 祥子  
大河原 邦子  
松田 玲子  
田島 勝  
林 ミユキ  
安藤 洋子

和田 輝光  
水野 美代子  
眞野 禮子  
佐野 玲子  
牧野 進  
森島 光博  
浅井 文子  
佐原 貴世子  
児玉 ヒロミ  
田島 勝  
飯田 眞理子  
田中 実  
藤原 和子  
田島 勝  
越後 春子  
田島 勝  
古味 純子  
中川 恵子  
加藤 三幸  
加藤 敦子  
洞谷 利光  
田島 勝  
伊井 孝子  
中村 佳子  
永井 太  
檜岡 純子  
宮田 実

特別寄付/加藤 庸子先生

皆様のご支援に  
深く感謝申し上げます。

## 役員一覧

(2025年12月31日)

会 長 金沢 敬雄  
副 会 長 安藤 謙  
永井 太  
城本 裕二  
檜岡 純子  
役 員 丸山 文子  
吉川 賢二  
山崎 桂子  
飯田 眞理子  
田中 実

役 員 宮崎 聖  
中川 早苗  
伊藤 英幸  
深井 泰子  
黒川 哲至  
神谷 哲夫  
大橋 庄洋  
佐野 公俊  
加藤 庸子  
佐藤 貴則  
相 談 役  
顧 問  
事 務 局



(後列右から) 黒川・安藤・檜岡・丸山・中川・飯田・深井  
(前列右から) 田中・伊藤・金沢・加藤先生・宮崎

## 編集後記

友の会副会長 安藤 謙

友の会『第64号会報誌』の発行にあたり、  
2025年を振り返りますと

- ・2月11日のウインターセミナー エクスカージョン
  - ・5月18日の第20回市民フォーラム
  - ・8月31日の加藤庸子先生と語る会
  - ・10月26日の第79回鳥羽日帰り親睦旅行
- の4行事を皆さんの協力で開催する事ができました。

その中で本会のメイン行事である市民フォーラム&親睦旅行には、120名&115名と多くの方の参加を頂き、厚く御礼申し上げます。

会報誌のおたよりコーナーには、会員の皆様からのおたより(行事参加の感想文、日常生活、旅行など内容自由)を次回の会報誌にも多く掲載させていただきますので事務局まで送付のご協力をよろしくお願い致します。

2026年は、秋のアジア大会開催の関係でメイン行事を例年から開催時期を変更して2026年2月22日に第21回市民フォーラム、6月7日に第80回琵琶湖温泉日帰り親睦旅行を計画しており、多くの皆様の参加をお待ちしています。

会員の皆様、健康に留意してお健やかに過ごしてください。



# Fujita 脳神経外科友の会 第80回親睦旅行ご案内

日程：2026年6月7日（日） 日帰りバス旅行

行先：琵琶湖グランドホテル 京近江

滋賀県大津市雄琴6丁目5-1

TEL：077-579-2111

3月1日 から申込受付開始

4月30日 申込締切

先着順(募集定員) 90名

(うち車椅子の方4名まで)

集合場所予定：JR名古屋駅 広小路口

受付開始時間：8時 出発時間：8時20分

帰着予定：18時頃

参加費予定：13000円/人

参加費は申込代表者に案内(5月初旬)後に  
送付する振込み票で支払い下さい

申込時の参加費は、受付けません

※参加費振込後のキャンセルは、友の会への  
寄付とさせていただきます



食事イメージ

<申込み・お問合せ先>

事務局 TEL:0561-38-7220

Mail:neuron2@fujita-hu.ac.jp FAX:052-323-5800

友の会 TEL:080-9739-7220

Mail:tomonokai7220@gmail.com

(ホームページからの申込)

A: QRコードを読み取る



B: ホームページのバナー  
(ボタン)を押す

<https://fujita-tomonokai.com/>



C: 申込みフォームのアドレスを  
直接入力する

アドレス(URL)

<https://fujita-tomonokai.com/social-trip-form/>

(FAXでの申込は以下を記入して事務局 宛)

申込日 月 日

申込代表者 氏名

☐ 会員 ☐ 非会員

住所 (〒 )

電話

同行者の参加者数 名

同行者氏名①

同行者氏名④

同行者氏名②

同行者氏名⑤

同行者氏名③

同行者氏名⑥

参加者で車椅子使用の方 名

車椅子タイプ ➡

☐ 手動

☐ 電動

☐ ストレッチャー

参加者で杖歩行の方 名

バスは乗車せず現地集合とする場合はチェックを入れてください ☐

旅行中の緊急連絡先 電話:

氏名:

※ 申込書に記載された個人情報については、参加者への連絡、旅行に必要な手続き、ご意見、  
ご感想の提供依頼及び代金請求、支払、代金領収の証明に使用いたします。